

Ansei and Toshiko Uchima: Weaving Colors and Memories

あん せい

内間安理・俊子展

色を織り、記憶を紡ぐ

東京からニューヨーク、版画とコラージュによる50年

Fifty Years with Woodblock and Collage, from Tokyo to New York

2026 2027
10.10 Sat. — 1.17 Sun.

※一部作品の展示替があります。

前期:10月10日(土)―11月29日(日) | 後期:12月1日(火)―1月17日(日)

開館時間:10:00-17:30(展示室への入場は17:00まで)

休館日:月曜日(10月12日、11月9日、11月23日、1月11日は開館)、年末年始(12月29日~1月3日)

観覧料:一般1400円(1120円) / 大高生1120円(900円)

()内は20名以上の団体料金。中学生以下と障害者手帳をご提示の方(付き添い1名を含む)は無料です。

企画展観覧券(ぐるっとパスを除く)をお持ちの方は、併せてMOMASコレクション(1階展示室)もご覧いただけます。

状況により休館および会期変更の可能性があります。ご来館前に当館ウェブサイトで最新情報をご確認ください。

主催:埼玉県立近代美術館、東京新聞

協力:JR東日本、FM NACK5

埼玉県
立近代
美術館

The Museum of Modern Art, Saitama

内間安理 Ansei Uchima
《Forest Byobu (Shrub Oak-Autumn) [森の屏風(シュラブ・オークの秋)]》(部分)
1979年 多色木版、紙 個人蔵

内間俊子 Toshiko Uchima
《鳩のいるアパートメント》(部分)
1986年 ミクストメディア 個人蔵



Ansei and Toshiko Uchima: Weaving Colors and Memories

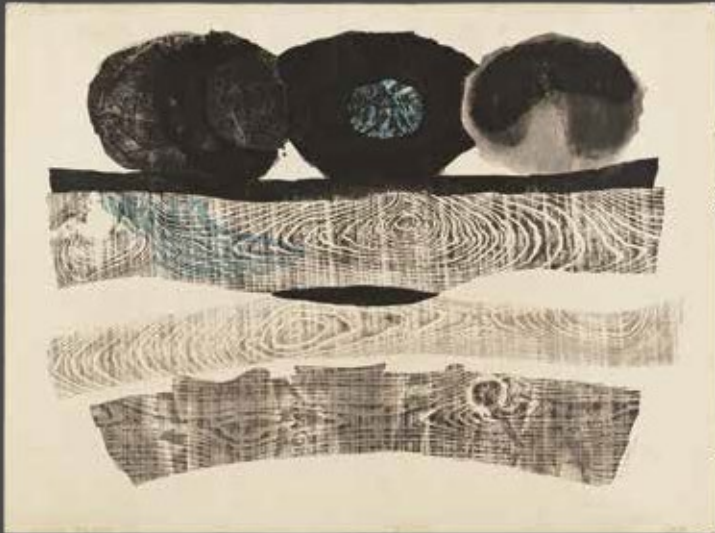
内間安理・俊子展

色を織り、記憶を紡ぐ

東京からニューヨーク、版画とコラージュによる50年
Fifty Years with Woodblock and Collage, from Tokyo to New York

内間安理 Ansei Uchima (1921–2000)

1921年、カリフォルニアに生まれる。1940年に来日し、翌年、早稲田大学専門部建築科に入学。在学中に熊岡洋画研究所で油彩画を学ぶ。1954年、版画コレクターのオリヴァー・スタットラーの取材に通訳として同行したことを機に恩地孝四郎や棟方志功らの木版画に触れ、木版画技法の研究を始める。1959年の帰米後はニューヨークを拠点に活動し、〈Space〉、〈Forest Byobu〉シリーズなどを発表。1982年に脳卒中で倒れるまで旺盛な活動を展開した。



1—〈Ripening【熟す】〉1966年 多色木版、紙 個人蔵 2—〈小さなアパート〉1955年(摺り:1956年) 多色木版、マルチブロック、紙 個人蔵
3—〈間〉1959年 多色木版、紙 個人蔵 4—〈相撲〉1957年 多色木版、紙 個人蔵 5—〈In Blue (Dai)〉1975年 多色木版、紙 個人蔵
6—〈Forest Byobu (Vermilion Blend)【森の屏風(ヴァーミリオン・ブレンド)】〉1981年 多色木版、紙 個人蔵



- I. 版画との出会い—日本時代[1940–1959]
- II. 版による空間表現の探究[1960–1976]
- III. 色を織る—〈Forest Byobu 森の屏風〉[1977–1982]



沖縄からアメリカへ渡った両親のもとに生まれた内間安理(1921–2000、米国籍)は、1940年に来日し、早稲田大学で建築を学びました。第二次世界大戦後、恩地孝四郎らの創作版画に影響を受けた安理は、木版画での抽象表現を追究していきます。帰米後はニューヨークを拠点に制作を続け、1970年代後半、浮世絵の版画技法にもとづく「色面織り」の技法を確立。色鮮やかな〈Forest Byobu 森の屏風〉シリーズで評価を高めました。大連で育った内間俊子(1918–2000、旧姓・青原)は、1935年に神戸へと移住し、小磯良平に絵画を学びました。1950年代初頭に上京すると、瑛九が中心となり結成された前衛的なグループ「デモクラート美術家協会」に参加。この頃、久保貞次郎や瀧口修造を知り、抽象的な油彩画や木版画を制作するようになります。1959年に夫の安理とともにアメリカへ渡り、後年は詩情豊かなコラージュやアッサンブラージュを制作しました。本展は、版画やコラージュを中心に、二人の独自性ある豊かな創作世界を振り返るものです。俊子については、初期から晩年までの軌跡を辿る初めての機会となります。戦後の激動の時代において、創作だけでなく、日米のアーティストや文化人のネットワーク形成にも尽力した両者の功績を再評価するとともに、イサム・ノグチや棟方志功など関連作家の作品と併せて紹介し、戦後美術の新たな一面に光をあてます。

内間俊子 Toshiko Uchima (1918–2000)

1918年、父の赴任先の中国安東県(現・遼寧省)に生まれ、大連で育つ。1935年、神戸に移る。1953年、「デモクラート美術家協会」に参加し、油彩画や木版画を発表。1956年、吉田千鶴子らと女流版画会を結成。1959年にアメリカに渡り、1960年代後半からはコラージュやアッサンブラージュの制作に転じた。



- I. デモクラート美術家協会の時代[1953–1956]
- II. 木版画の時代[1956–1968]
- III. 記憶を紡ぐ—コラージュとアッサンブラージュ[1968–2000]



1—〈愛の讃歌〉1957年(摺り:1958年) 多色木版、水彩、紙 個人蔵 2—〈彩のある風景〉1954年 油彩、カンヴァス 和歌山県立近代美術館蔵
3—〈Anju Baby 1960〉1968-70年頃 コラージュ、紙 個人蔵 4—〈オルゴール〉1955年 油彩、カンヴァス 和歌山県立近代美術館蔵
5—〈On Ansei's Birthday〉1983年 コラージュ、パステル、紙 個人蔵 6—〈彼女の名はデ이지ー〉1985年 コラージュ、パステル、紙 個人蔵
7—〈Downtown〉1982年 ミクストメディア 高知県立美術館蔵



内間安瑠・俊子展 あん せい 色を織り、記憶を紡ぐ

Ansei and Toshiko Uchima: Weaving Colors and Memories



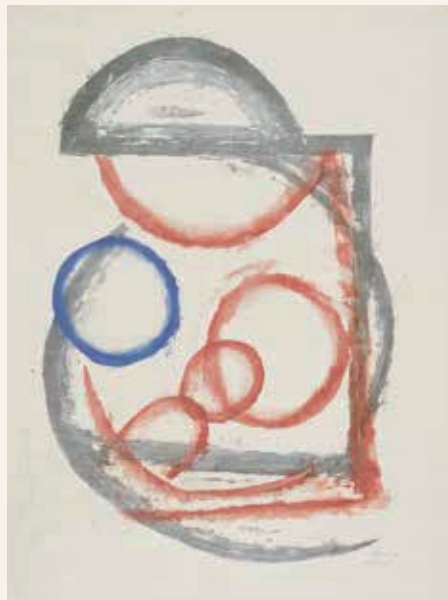
猪熊弦一郎《猫と頭》1952年 油彩、カンヴァス
早稲田大学會津八一記念博物館蔵 ©The MIMOCA Foundation



棟方志功《柳緑花紅頸 松蔭の欄》1955年
木版、紙 個人蔵



ニューヨークの自宅での家族写真 1962年頃



恩地孝四郎《母性》1946年 木版、紙 神奈川県立近代美術館蔵



瑛九《花》1956年 油彩、板 埼玉県立近代美術館蔵



イサム・ノグチ《鳥》1952年 陶 個人蔵
©2026 The Isamu Noguchi Foundation and Garden Museum/ARS, New York/ JASPAR, Tokyo C5576

【関連イベント】

■ 講演会

講師 | 岡崎乾二郎(造形作家、批評家)

日時 | 1月9日(土)

※詳細は決定次第、当館ウェブサイトでお知らせします。

場所 | 2階講堂

定員 | 80人(当日先着順)

参加料 | 無料

■ レクチャー「内間俊子とその時代」

登壇者 | 桑原規子(本展学術協力者)、関 直子(当館特任館長)、
佐藤あゆか(当館学芸員)

日時 | 12月20日(日) 15:00~16:30(開場は14:30)

場所 | 2階講堂

定員 | 80人(当日先着順)

参加料 | 無料

■ ミュージアム・シアター

ピアノコンサート「内間夫妻によせるピアノ演奏会」

出演 | 山本香紫(ピアニスト)

日時 | 11月1日(日) 15:00~15:30

場所 | 地階センターホール

参加料 | 無料

※ご鑑賞の座席には限りがあるため、立ち見となる可能性があります。

曲目 | バダジェフスカ「乙女の祈り」、J. ケージ「おもちゃのピアノの
ための組曲」ほか

■ ワークショップ「内間安瑠・俊子に学ぶ多版多色の木版画」

講師 | 関 優花(美術作家・版画家／版行動メンバー)

日時 | 11月29日(日) 13:00~17:00

場所 | 3階創作室

対象年齢 | 高校生以上

定員 | 15人(事前申込制、応募者多数の場合は抽選)

参加料 | 有り

※参加料含むワークショップの詳細や申込方法は、9月頃当館ウェブサイト
でお知らせします。

■ 担当学芸員によるスライドレクチャー

日時 | 11月23日(月・祝) 15:00~16:00(開場は14:30)

場所 | 2階講堂

定員 | 80人(当日先着順)

参加料 | 無料

■ 担当学芸員によるギャラリートーク

日時 | ①10月18日(日)15:00~[60分程度]

②12月13日(日)15:00~[60分程度]*手話通訳付き

協働:NPO法人エイブル・アート・ジャパン



場所 | 2階企画展示室 *企画展観覧券が必要です。

スライド・トーク

ご希望のグループにスライドを使って本展覧会の見どころをご案内
します(予約制)。

お問合せ・ご予約は教育・広報担当(電話048-824-0110)まで。

同時開催

MOMASコレクション(1階展示室)

9月5日(土)~11月29日(日)

「セクション」「特集 堀浩哉:ゼロからの実践」

12月5日(土)~2027年2月28日(日)

「モネ没後100年によせて—光を描く」雪月風花を愛でる—
大熊家コレクションから」

埼玉県 立近代 美術館

The Museum of Modern Art, Saitama



埼玉県
彩の国



©埼玉県2005

〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤9-30-1

Tel: 048-824-0111 Fax: 048-824-0119

E-mail: p240111@pref.saitama.lg.jp

https://pref.spec.ed.jp/momas/

■交通のご案内■ JR京浜東北線北浦和駅西口から徒歩3分(北浦和公園内)。JR東京駅、新宿駅から北浦和駅までそれぞれ約35分。当館に専用駐車場はありませんが、提携駐車場「タイムズ 埼玉県立近代美術館東」では駐車料金の割引があります(企画展観覧で300円引き、MOMASコレクション観覧で100円引き)。団体バスは事前にご相談ください。お体の不自由な方のご来館には業務用駐車場を提供いたします。ただし台数に限りがありますので事前にご連絡をお願いします。



いつでもどこでもカンタン便利!

定期券を買うなら、モバイル Suicaで!

※モバイル Suica 定期券の購入には、モバイル Suica の会員登録が必要です。
※一部、アプリ操作のみでは購入できない切符・経路があります。

埼玉県
立近代
美術館

